

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	高橋 甲枝	職名	准教授	学位	修士 (看護学)
----	-------	----	-----	----	----------

研究分野	研究内容のキーワード
急性期・回復期の技術教育 初年次教育 がん看護 運動器疾患を持つ患者の看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ シミュレーション教育 ・ 初年次教育 ・ 乳がん患者の就業支援 ・ 運動器疾患を持つ患者の QOL

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ がん患者の就労支援ニーズについて、協力病院からの患者紹介のもと調査を実施する。 ・ 笹月准教授を中心に看護・福祉・栄養学科の学生のプロフェッショナリズム形成に関する調査研究のために、インタビュー結果の検討を行っており、今後、学生を対象に調査を行う予定である。 ・ 急性期看護技術教育の一環として、ストーマ造設した学生の学びを明らかにする。 ・ 初年次教育の効果を経時的に検討する。

担当授業科目
初年次セミナーⅠ (前期) リハビリテーション看護学 (前期) 救急クリティカルケア看護学 (前期) 成人・老年看護学演習 (前期) 看護総合演習 (前期) 看護総合実習 (前期) 初年次セミナーⅡ (後期) 成人急性期看護学方法論 (後期) 成人急性期看護学実習 (後期) 救急・クリティカルケア看護学演習 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【初年次セミナーⅠ】前期 15 コマ, 30 時間 ①今年度より科目担当者が 10 名から 5 名の体制になった。教員が約 20 名の学生を担当することから、教員間での指導の差をなくすため、講義前には講義内容の確認を、講義後には学生の姿勢や達成状況などについて意見交換を行った。 ②また、学生が講義内容を充分把握した上でゼミ活動を行うことができるよう、授業進行にそって講義責任者が、学生全員を対象に講義概要を説明した。その後、ゼミ別にゼミ担当教員が学生指導を行った。 ③スタディスキルズの習得をより図るためミニレポート・レポート作成に取り組む授業コマ数を昨年より 2 コマ増やした。提示する課題についても検討を加えた。また、昨年の課題であった文献引用・文献記載法の指導を強化した。 ④ミニレポート・グループワーク・ポートフォリオについては、評価視点を明確にするため評価表の修正改善を行った。 ⑤昨年同様、情報収集の方法について情報課および図書課と連携し実践を通し学生の学びを深めた。
授業科目名【リハビリテーション看護学】前期 15 コマ, 30 時間 (13 コマ, 26 時間担当) ①リハビリテーション看護学は、3 年次前期開講科目である。2 名の教員で担当している。2 年次までに学んだ疾病論、急性期看護学方法論、慢性期看護学方法論、老年期看護学方法論と密接に関連する科目である。

<p>②講義だけではなく、演習を取り入れている。演習は、運動器リハビリテーション、嚥下リハビリテーションに加え、ストマケアの演習を行っている。今年度より学生がストーマ造設する患者の日常生活における想いを理解するために、学生に装着体験を導入した。学生のレポートをみると日常生活の不便さやストーマサイトマーキングの重要性を学んでいた。</p>
<p>授業科目名【救急・クリティカルケア看護学】前期 15 コマ, 30 時間 (5 コマ, 10 時間担当)</p> <p>救急・クリティカルケア看護学は、3 年次前期開講科目である。2 名の教員で担当している。集中ケア看護認定看護師の講義を取り入れ、学生が興味・関心を持てるように工夫を行った。救急・クリティカルケアの場面では、尊厳死、倫理的な葛藤について考える機会が多いため、事例をもとに展開を行い、倫理的要件について考える機会とした。助手・助教の先生に演習に参加してもらい、自分たちの経験を語ってもらうことで、身近な課題であること、意識して行動する必要性について学ぶようにした。</p>
<p>授業科目名【成人・老年看護学演習】前期 30 コマ, 60 時間</p> <p>成人・老年看護学演習は、看護過程と看護技術の演習である。3 年前期に看護過程演習および看護技術演習を行っている。昨年より、急性期事例 (胃がん)、慢性期事例 (肝硬変)、老年事例の 3 例を展開した。グループワーク人数を 5 名から 4 名と人数を減らし、個人ワークをしてこないグループワークに反映できないようにした。人数が少ないことで発言せざるを得ない状況をつくることで、おとなしい学生も発言する機会を得ることができていた。但し、グループダイナミクスを発揮できるグループとそうではないグループがあり、グループ活動の難しさを感じる。次年度は学生の主体的な発言ができるように発問を考えながら演習を展開していきたい。例年、学生から課題が多いという指摘を受けるため、実習では在院日数の短い患者の看護過程の展開は演習よりも速いことを伝え、そのための基盤づくりであることを最初に強調した。</p> <p>看護技術演習は、食事療法、ADL、ドレーン管理、血糖測定、手術後の観察演習の 5 項目からなる。主に手術後の観察演習はシミュレーション演習を担当した。実際臨地で使用している物品等を使用し、模擬患者を用いて臨場感を持たせた演習を行っている。4 年生の模擬患者の導入に加え、試験後に 4 年生を交えたリフレクションを導入したことで、患者の状態にあわせて観察・判断をしていくことの必要性を学んでいた。</p>
<p>授業科目名【看護総合演習】前期 15 コマ, 30 時間</p> <p>看護総合演習では、7 名の学生を担当した。事前に実習計画書の指導および技術指導を行った。また、学生が事前に実習指導者と調整を行うなどの経験を通して社会人としての対応も学ぶことができるように病棟との調整を行い、学生にも指導を行った。</p> <p>9 月卒業生は、7 月に実習へ行き、9 月にケーススタディとして論文作成、抄録、パワーポイントを用いた発表を行った。その際に 3 月卒業生が参加し質疑応答を行った。3 月卒業生も同様に論文にまとめ、抄録作成と、その内容の発表をし、自己評価を行うことができていた。</p>
<p>授業科目名【看護総合実習】前期 2 週間 (臨地 7 日間)</p> <p>看護総合実習では、7 名の学生を担当した。個々の学生の課題達成のために、眼科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、手術室、救急部で実習を行った。事前に実習計画書の指導および技術指導を行った。学生は積極的に実習を行っており、事前学習を活かして実習に臨むことができていた。実習終了後、ケーススタディとしてまとめ評価を行うことができていた。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナーⅡ】後期 15 コマ, 30 時間</p> <p>主担当として、シラバス作成、シート作成、シラバスに相当する評価表の作成と運営を行った。</p> <p>① 初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。特に看護学科ではこれから学修する専門科目の基盤として「書く」「考える」クリティカルシンキングを意識したプログラムとした。</p> <p>② 講義を 2 コマ続けて実施することで、学習内容・進度にあわせた講義進行が可能になった。</p> <p>③ 初年次セミナーⅠでの学生の意見を受けて文献カードの記載法や、学生が議論をとおして思考できるよう課題発見のためのシートなども改良した。また、学生が考え抜く力を身につけるために、毎回の演習の振り返りを行うためのシートを追加した。</p> <p>④ 課題レポートのグループテーマを新聞情報から見つけるように指導した。この取り組みにより学生の社会に対する視野の広がりにつながったと考える。</p> <p>⑤ 初年次セミナーⅡでは初年次Ⅰとは異なるグループ編成にした。その結果、学生間に大きな評価の差もなく、学生からは「今まで会話したことがなかった学生との交流が図れた」との意見が聞かれた。</p> <p>⑥ DP にそった評価指標をオリエンテーションで明示した。学生はレポート作成、発表と段階に応じた自己評価を行い、自己の振り返りを行うことができていた。</p>

<p>⑦ 今年度は、教育体制を教員 10 名から 5 名にした。少人数での協議は、教員間の調整が容易となり、講義内容および成績評価の差が少なくなった。また、パワーポイントを用いた発表評価は、担当者 5 名に看護学科教員 1 名を加えた計 6 名で評価した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うことができた。</p>
<p>授業科目名【成人急性期看護方法論】後期 15 コマ, 30 時間 (8 コマ担当)</p> <p>成人急性期看護方法論は、2 年次開講科目である。2 人で講義を担当した。本科目はこれまでに学んだ形態機能学、疾病論、成人老年看護概論などの科目と関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に既習の科目の復習を行い、講義に臨むように説明を行った。急性期看護の総論を 3 コマとした。手術を受ける患者の身体侵襲時の生体反応についての解説、手術を受ける患者の心理面について事例をもとに解説を行った。他に呼吸器、婦人科疾患で手術を受ける患者の看護、脳神経外科の術後の管理について解説を行い、視覚的・感覚的に学習する機会を取り入れた。今年度より手術創と固定法、ドレーンがどのように体内に挿入され、固定がされているのかを理解するために患者モデル T シャツ作成を導入した。</p>
<p>授業科目名【成人急性期看護学実習】前期 3 週間 2 クール 後期 3 週間 4 クール</p> <p>成人急性期看護学実習は 2 週間の病棟実習と 3 週目に ICU および手術室見学実習の 3 週間実習である。今年度より、2 週目金曜日に「入退院センター」の見学実習を導入した。</p> <p>病棟実習では、既習の知識が、実際の患者を通して知識が統合されるように関わった。助教の先生の学生への指導が的確に行われるように、看護診断、関連因子、徴候の確認や看護計画の目標、計画、根拠について確認を行い、学生への指導に繋がるように調整を行った。実習中に問題がある学生については、面接を行い、助教の先生方と教育の方向性を統一するように心がけた。また、最終日には個人面接を行い、個人の課題を明確にすることで次の実習に繋げるように努めた。入退院センターの見学実習では、病棟との連携や入院前の説明の重要性を学ぶ機会となった。ICU および手術見学実習では、事前課題の提出を求め、学内オリエンテーション時に気管挿管の説明や滅菌ゴム手袋の装着演習を行っている。実際の物品をもとに説明を行うことで目的や方法についての理解に努めた。</p>
<p>授業科目名【救急・クリティカルケア看護学演習】後期 15 コマ 30 時間</p> <p>2 名の急性期の教員で演習を行った。演習では救急・クリティカルケア領域における倫理的な問題についてグループワーク、発表を行い看護師のジレンマについて考える機会とした。また、集中ケア認定看護師による実際の人工呼吸器を用いた説明および拘束性肺疾患の体験と人工呼吸体験を行い、患者の苦痛の理解と看護を深めるように努めた。挿管モデル人形を用いて、挿管の介助方法について学ぶ機会となった。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会会員		1987 年 4 月～(現在に至る)
日本公衆衛生学会会員		1995 年 5 月～(現在に至る)
日本看護研究学会会員		2004 年 7 月～(現在に至る)
日本看護科学学会会員		2004 年 7 月～(現在に至る)
日本看護技術員		2011 年 4 月～(現在に至る)
日本運動器看護学会会員		2015 年 2 月～(現在に至る)

2019 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 看護学科における初年次教育の取り組み	共	2020 年 3 月	西南女学院大学紀要, 24, 11-21, 2020	①全学的にスタートした初年次教育の看護学科における教育プログラムを検討した結果、学生の到達度自己評価では 90%以上のものが目標を達成していた。

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				今後は教育プログラムの改善に向けて評価指標の検討を行っていきたい。 ② 高橋甲枝、目野郁子、新谷恭明、他 7名
(翻訳)				
(学会発表) 示説 「食と健康」に関する地域共 密着型食育活動の展開 ～2018年度事業概要なら びに参加者の行動変容		2019 9.6	第66回日本栄養改善 学会総会 於 富山	近江雅代、境田靖子、田川辰也 他

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・西南女学院大学は、「食べ物と健康」の立場から、九州歯科大学は、「口腔保健」の視点から、公開講座を開講時に学生ボランティア募集および血圧測定・酸素飽和度測定支援		

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
就職委員：2018. 4. 1～2019. 3. 31 4年生（ゼミ）アドバイザー：2019. 4. 1～2020. 3. 31